

## 第7章 津波対策の教育・啓発

津波防災啓発において最も大切なことは、住民等に対して自らの命は自らが守るという観点に立って、「海岸付近で強い地震等を感じたら急いで避難」という基本的な事項を周知徹底し、実行させることである。

津波発生時に円滑な避難を実施するために、津波の恐ろしさや海岸付近の地域の津波の危険性、津波避難計画等について、啓発、教育を実施する。

### 1 津波に対する心得

1	強い地震（震度4程度以上）を感じたとき又は弱い地震でも長い間ゆっくりとした揺れを感じたときは、直ちに海浜から離れ、急いで安全な場所に避難する。
2	地震を感じなくても、津波警報が発表されたときは、直ちに海浜から離れ、急いで安全な場所に避難する。
3	正しい情報をラジオ、テレビ、広報車などを通じて入手する。
4	津波注意報でも海水浴や磯釣りは危険なので行わない。
5	津波は繰り返し襲ってくるので、警報や注意報が解除されるまで気をゆるめない。

この津波に対する心得を絶えず住民等の心に止めておくためには、様々な機会に多様な手段により、津波防災に関する啓発、教育を実施することが大切である。このため、次の手段、内容、啓発の場等を組み合わせながら、各地域の実情（津波災害歴の有無、海岸付近の土地利用、地域コミュニティの成熟度、社会環境の変化等）に応じて、啓発、教育を実施する。

### 2 津波防災啓発の手段

- (1) マスメディアの活用…テレビ、ラジオ、新聞等
- (2) 印刷物、ビデオ…パンフレット、広報誌、ビデオ、ホームページ等
- (3) 八戸市防災コミュニティセンター…津波等防災関係の研修
- (4) 学習、体験…防災ウォッチング、避難体験等

### 3 津波防災啓発の内容

- (1) 津波に対する心得
- (2) 過去の津波被害記録…伝承、津波被災者の体験談による過去の津波被害
- (3) 津波の発生メカニズム…津波の発生メカニズム、速さ、高さ等の基礎知識
- (4) 八戸市津波浸水予測図
- (5) 津波避難計画の内容…津波予報・情報の伝達、避難勧告・指示、避難場所、避難路等

### 4 津波防災啓発の場等

家庭、学校、地域社会（自主防災組織・町内会・女性団体・青年団等）や事業所において津波防災啓発を行うためには、津波の知識や防災の経験を有した者が行うことが大切であり、こうした人材の育成が重要である。消防・防災行政や消防団の経験者、自主防災組織等のリーダー、防災ボランティア、事業所等の防災担当者等に対して、津波避難に関する講習会等を実施し、地域社会や事業所において津波防災啓発の核となる人材を養成する。